

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																		
愛知ペット専門学校		平成20年2月22日	牧 良	〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鰻池246-1 (電話) 0564-57-8139																		
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人アイピーシー学園		平成20年2月22日	牧 良	〒444-0813 愛知県岡崎市羽根町鰻池246-1 (電話) 0564-57-8139																		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																	
文化・教養	文化・教養専門課程	動物看護科		平成21年文部科学省告示第86号	-																	
学科の目的	動物看護科は主に動物病院に従事する有能な人材育成をする為に必要な知識・技術を学ぶことを目的とする。																					
認定年月日	平成26年3月31日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																
2年	昼間	2280時間	735時間	225時間	1320時間	-																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
40	36名	0	3人	1人	4人																	
学期制度	■2学期制 前期:4月1日～9月30日 後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末に行う試験、実習の成果や出席時数等の履修状況等を総合的に勘案して行う																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■夏季:7月21日～9月3日 ■冬季:12月15日～1月8日 ■学年末:3月16日～3月31日		卒業・進級条件	2年の修業年限以上の在学及び開設する授業科目の成績評価に基づく課程修了の認定を受けた者																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 主に担任による個人面談(電話連絡および保護者面談等含む)		課外活動	■課外活動の種類 毎年テレビ愛知主催のふれあいイベントに協力、本年度も学生の研修等の場として参加を予定している ■サークル活動: 無																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 動物病院、ペットショップ ■就職指導内容 就職セミナーおよび担任による個人指導 ■卒業生数 12 人 ■就職希望者数 12 人 ■就職者数 12 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 進学者:なし (令和2年度卒業者に関する令和3年3月25日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年3月25日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動物看護師統一認定資格</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>ケアコミュニケーション検定</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>秘書検定3級</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	動物看護師統一認定資格	③	12	9	ケアコミュニケーション検定	③	13	11	秘書検定3級	③	13	9
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																			
動物看護師統一認定資格	③	12	9																			
ケアコミュニケーション検定	③	13	11																			
秘書検定3級	③	13	9																			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者36名(令和2年4月1日入学者および復学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者35名(休学及び令和2年3月31日卒業生を含む) ※1年次前期末で転科を認める場合があり、転入2名、転出2名。 ■中途退学の主な理由 学業不適応 ■中退防止・中退者支援のための取組 随時面談を実施、オリエンテーション又はレクリエーション等の開催		■中退率 3%																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 IPC特待生制度:1年次の授業料の全額、又は一部が免除される(選考有) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 1名																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科のホームページURL	<a href="http://aichipet.com/?p=2026">http://aichipet.com/?p=2026</a>																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年ペット産業を取り巻く分野において、めまぐるしく変化し、且つ進出し続ける市場を背景に、学校教育法(第124条)における「専修学校の目的」に鑑み、その専門分野において市場が求める実践的な知識・技術・技能を十分に認知するべく本学科が目指す職業教育に関連した企業と組織的に連携して必要十分な授業科目を創設していくこととし、またその実施に当たっては、当該専門課程の教育にふさわしい授業方法への改善・工夫を行った上で教育課程を編成することとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

動物看護師が目指す職業教育における関連事業の企業と連携し、同企業より当該過程に関連する専門分野に精通した各役職者等を構成員とした「教育課程編成委員会」を学校内に組織し、委員会の方針に沿って科長が編成を行い、学校長の許可を得てから当年度の実施及び履行がなされるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年8月9日現在

名前	所属	任期	種別
脇田 亮治	一般社団法人全国ペット協会 専務理事	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	①
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	③
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	③
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理次長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	③
山本 順子	株式会社アイピーシー ペットサロンdoggies店長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(3年目)	③
締川 真衣子	株式会社アイピーシー わんわん動物園副主任	令和2年5月1日～令和3年3月31日(1年目)	③
牧 良	愛知ペット専門学校 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	
栗田 晶子	愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	
細川 綾子	愛知ペット専門学校 ペトリマー科科長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	
芳賀 美咲	愛知ペット専門学校 動物看護科科長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	
東 晃司	愛知ペット専門学校 ペットアドバイザー科科長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(4年目)	
長坂 清美	愛知ペット専門学校 動物看護科講師	令和2年8月9日～令和3年3月31日(1年目)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年度内で8月と3月の2回開催する

(開催日時(実績))

第1回 令和2年12月17日 14:00～15:00

第2回 令和3年3月25日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

人と動物がよりよい関係を築けるよう、動物関係の職業に携わる者として動物を飼育する人に対して指導できる人材をとの意見に対し、自身がわかっているのは当たり前とし、飼育している人に対して指導できるよう、動物の心理を読み解く力、病気を見つける力、動物を見る目を養う、人とのコミュニケーション力を養う授業を行っている。行動力・積極性が弱い為強化するよう授業を進めていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット産業界が求める知識及び技能を的確に反映すると共に、社会人としての基礎能力の向上を重視した教育を行う為、積極的に企業等へ学習活動の協力を求め、より実践的な専門性の確保を目的として学習機会(企業内実習、企業参加の学内実習活動等)を設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実際のペット業界のしくみ、動物の健康管理・飼養方法等について学びながら、実際のお客様に対しての接客技術を取得することを目的として、担当スタッフ指導の下、実習を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	株式会社アイピーシー
飼育管理実習Ⅰ	わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。	株式会社アイピーシー
動物看護実習Ⅰ	わんわん動物園から生体の提供を受け、投薬方法、薬浴等実際の生体を使用し行うことで技術力の向上を図る。	株式会社アイピーシー
院内コミュニケーション	学生等をオーナー、わんわん動物園保有する生体を患者動物と見立て、問診、診療補助、薬説明等を行うことで技術力の向上を図る。	株式会社アイピーシー
総合臨床実習	実際の動物病院等で実習を行うことで、より実践的な技術・知識を習得する。	宇野獣医科病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「研修委員会」を設置し、最低でも年2回会合を実施することを規定に定め、最新のペット業界の動向等を把握し、必要な研修等を計画、実施する。例えば、本学科においては犬猫等の病気に関わる最新の解剖生理学や健康管理学に関わる知識、又動物病院の商品・経営・診療に関わる知識等を得るため、積極的に勉強会や研修を実施する。

(2)研修等の実績(2020年度)

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「病院業務実務研修」(連携企業等:株式会社アイピーシー)

期間: 6月10日(月)～ 3月12日(木) 対象:担当教員

内容: わんわん動物園から生体の提供を受け、生体の扱い方、薬の扱い方、衛生管理方法、疾病管理方法等を学んだ。現在も継続中。

研修名「指導力強化研修」(連携企業等:株式会社アイピーシー)

期間: 4月15日(月)～3月12日(木) 対象:担当教員

内容: 学生の指導方法や生体管理方法について、わんわん動物園スタッフと話し合いを行い、学生の社会人マナー・生体の扱い方へのアドバイスを受けた。現在も継続中。

また、教科書に載っていることや今までの経験などを踏まえての授業も行っているが、新しく疑問に思った内容に対し実際に研究を行い、外部への発表も行った。

研修名「セミナー研修」

期間: 4月20日～30日 対象:担当教員

内容: 外部で行っているセミナーに参加し見聞を広める。

②指導力の修得・向上のための研修等

全教職員を対象に、教育者としての視点を改め、再認識することを目的とし、研修後は各教員が担当する教科指導やクラス運営の中で、学生への指導助言に役立てた。

研修名「教職員研修会」株式会社アイピーシー 事業・企画開発部主催

期間: 令和2年4月～令和3年3月(月2～3回程度) 対象:全教職員

- ①「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策と学生へのケア」(年間を通し継続的に実施)  
内容: 学生や保護者に対する説明方法や拡大防止策の具体的措置、学生への配慮及び指導内容を具体的に指導を受ける
- ②「遠隔授業開催の手法と留意点」(4月)  
内容: ZOOMの操作方法と注意点、カメラの位置、話し方等
- ③「美化の意識」内容: 施設美化への意識、毛の一本も落ちていない施設を目指す(年間を通し継続的に実施)  
今年度は、教室など現認していただきながら長期的な指導を受けた
- ④「組織力の強化」内容: 確認、期日厳守など(全9回)  
「確認・連絡・報告」をテーマに教員同士や学生(保護者)との積極的なコミュニケーションを図るよう意識改革に役立った

(3) 研修等の計画(2021年度)

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「病院業務実務研修」(連携企業等:株式会社アイピーシー)

期間: 4月13日(月)~3月15日(月) 対象: 担当教員

内容: わんわん動物園から生体の提供を受け、生体の扱い方、薬の扱い方、公衆衛生、それぞれの疾病の対応方法を学ぶ。

研修名「セミナー研修」

期間: 4月1日~3月31日 対象: 担当教員

内容: 外部で行っているセミナーに参加し見聞を広める。

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・全教職員を対象に、職業教育にあたる教員の資質向上を目的として、連携企業より講師を招いた研修を継続する。

研修名「教職員研修会」(主催:株式会社アイピーシー 事業・企画開発部)

期間: 令和3年4月~令和4年3月(月2~3回程度) 対象: 全教職員

内容: 職業教育に当たる教員の資質向上を目的として、連携企業より講師を招いた研修を行う。

時勢に合わせ、その時に必要性を感じる内容をテーマに開催する。

- ・その他、学生指導及び支援等の指導力向上に役立つ講演会やセミナーを随時案内する

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当該専門課程の教育にふさわしい教育活動が実施されたことに対する成果を検証し、必要な改善を速やかに行うことで教育水準の向上を図ることが重要である。また、学校教育活動に対しペット産業に関わる企業や保護者などと連携し意見を積極的に汲み取ることで相互理解の促進を図り、教育活動の改善と発展を推し進める。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか 等
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか 等
(3) 教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 等
(4) 学修成果	・就職率の向上は図られているか 等
(5) 学生支援	・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 等
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 等
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか 等
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 等
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 等
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 等
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学科の特性や専門性を活かしたボランティア活動はとてよい試みとして評価を得て、活動先の趣旨を踏まえふれあい内容を改善し、それに合わせた犬の訓練を授業内に取り組みむことを検討する。また、学校施設周囲の道路・歩道のゴミ収集・路面清掃、関係施設周辺では岡崎市と連携した“イエローカード作戦”を通じた路上排泄犬糞の放置を防止するための活動も継続していく。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	企業等委員
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	企業等委員
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理部次長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(8年目)	企業等委員
山本 順子	株式会社アイピーシー ペットサロンdoggies店長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(3年目)	企業等委員
締川 真衣子	株式会社アイピーシー わんわん動物園副主任	令和2年5月1日～令和3年3月31日(1年目)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

## (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 令和3年7月公開予定

<http://aichipet.com/wp-content/uploads/2020/07/h31.gakkouhyouka.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当該専門課程の教育活動が実施されたことに対する活動及び成果について連携企業及び保護者や地域住民に対しわかりやすく示し、情報提供を行うことで学校としての説明責任を果たすとともに相互の理解を深め、連携の促進を図る。また、情報の共有による連携協力の促進を通じて、学校・企業・家庭それぞれの意見が反映され、教育力が高められることを期待する。

## (2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・所在地、連絡先、校長名 等
(2)各学科等の教育	・各学科の定員数、入学者数、在学生数 等
(3)教職員	・教職員数(職名別) 等
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況 等
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 等
(6)学生の生活支援	・学生相談に関する体制 等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) 等
(8)学校の財務	・貸借対照表、収支計算書 等
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 等
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3)情報提供方法

(ホームページ)

<http://aichipet.com/wp-content/uploads/2020/07/r2.5gaidline.pdf>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ペット一般教養Ⅰ	就職セミナー（業界の就活事情、社会人としての心構え、履歴書の書き方、自己分析の方法等）	1後	15	1	○			○		○		
○			特別活動Ⅰ	スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力を養う。	1通	60	2			○	○	△		○	
○			共通基礎	犬との接し方や犬具等道具の扱い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な習性や生理等について学ぶ。	1前	60	2	△		○	○	△		○	
○			各科実習	所属する部科に関わらず、ペット美容、しつけ訓練、動物看護、飼育繁殖の基礎を学ぶ。	1前	60	2	△		○	△	○		○	
○			動物形態機能学Ⅰ	主に犬猫を中心に動物の体の構造、筋骨格系等の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			動物感染症学Ⅰ	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。	1通	30	2	○			○			○	
○			動物健康管理	健全な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導に活かす。	1前	15	1	○			○			○	
○			動物医療関連法規Ⅰ	動物愛護及び管理に関する法律における責務と規制事項を理解し、動物福祉と人との共生の観点から関連法を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			動物行動学	犬猫の基本的な行動様式と学習方法を知る。又、犬種ごとの特徴、沿革などを知ることによって犬種ごとの対応方法などについても学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			伴侶動物Ⅰ	犬以外の伴侶動物、エキゾチックアニマルや猫の生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			インターンシップ	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	1通	30	1			○	○			○	○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			飼育管理実習Ⅰ	わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。	1通	90	3			○	○	○	○		
○			動物飼育実習Ⅰ	わんわん動物園から生体提供を受けた担当犬に対する衛生管理を動物園業務と直結した指導教育に取り組む。	1前	45	1			○	○	○	○		
○			動物飼育実習Ⅱ	今の時代にあった展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常のケア等を通じて生体を扱う基礎力を養う。	1前	90	2			○	○	○	○		
○			公衆衛生学	人と動物との間に感染する疾患、その治療法や予防法、滅菌や消毒について学ぶ。	1後	30	2		○	△	○	○			
○			動物人間関係学	ヒューマンアニマルボンドや動物介在福祉、飼い主への対応方法などについて学ぶ。	1後	30	2	○	△	△	○	○			
○			動物臨床検査学	各種検査方法の使用道具、注意点、検査方法、検体採取方法などを学ぶ。	1後	60	4		○	△	○	○			
○			動物医療コミュニケーションⅠ	飼主対応、スタッフ同士のコミュニケーション方法等を学ぶ。	1後	15	1		○	△	○	○			
○			野生動物	生態系における野生動物の位置づけ、野生動物の現状などについて学ぶ。	1後	30	2		○	△	○	○			
○			動物福祉・倫理	獣医学倫理や動物の福祉について学ぶ。	1後	30	2	○		△	○	○			
○			伴侶動物Ⅱ	エキゾチックアニマルの形態機能、疾患、治療方法などについて学ぶ。	1後	30	2	○		△	○	○			
○			動物臨床看護学総論Ⅰ	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1後	15	1		○	△	○	○			



授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			院内コミュニケーション	受付業務、診療補助、スタッフコミュニケーション、クライアントコミュニケーションを学び、実践する。	1後	75	2	△		○	○	△	○	△	○
○			動物内科看護学実習	看護方法の実践、輸液管理や調剤、薬浴などの薬の扱いも学んでいく。	1後	90	2			○		○	○	△	○
○			ペット一般教養Ⅱ	就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説	2通	30	2	○			○				○
○			特別活動Ⅱ	主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営又は協力。	2通	60	2			○	○	△			○
○			ゼミナール	卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。	2通	30	2	△	○		○				○
○			課題研究	卒業研究及び卒業論文の作成	2通	45	3	△	○		○				○
○			動物形態機能学Ⅱ	比較解剖学、血液学、免疫学など、より高度な動物の形態機能を学ぶ。	2通	90	6	○		△	○				○
○			動物病理学	病気の原因、発生のメカニズムを理解し、病気の診断を確定させる。	2前	30	2	○			○				○
○			動物薬理学	よく使用される薬の主作用、副作用などについて学ぶ。	2通	60	4	○			○				○
○			動物感染症学Ⅱ	寄生虫の感染経路、症状、予防方法、微生物についての生態を把握し、治療法や予防方法学ぶ。	2前	60	4	○			○				○
○			動物臨床栄養学	ペットフードの基本的な知識を学び、個体にあった適切な食事管理や各疾患で使用する療法食の種類、注意点を学ぶ。	2通	60	4	○			○				○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護科) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			動物医療関連法規Ⅱ	獣医師法や薬物関連法規を理解し、動物看護医療に従事する者としての知識を身につける。	2前	15	1	○			○			○		
○			動物繁殖学	主に犬猫の繁殖生理を理解し、繁殖に伴う遺伝的要因、遺伝性疾患、先天異常などについて学ぶ。	2後	30	2	○			○				○	
○			動物臨床看護学総論Ⅱ	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きをおいた動物看護の基本的な考え方を学ぶ。	2前	15	1	○			○				○	
○			動物臨床看護学各論Ⅱ	様々な疾患の病態生理を理解し、引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。	2通	120	4			○	○				○	
○			動物医療コミュニケーションⅡ	日常健康管理に関わる飼主教育、入院動物の様態説明、スタッフ同士のコミュニケーションについて学ぶ。	2前	30	2	○	△	△	○					○
○			動物看護実習	看護動物の飼育に関する技術の実践と応用。	2通	120	4			○	○					○
○			動物臨床検査学実習	各種検査方法の使用道具、注意点、検査方法、検体採取方法などを実践と応用。	2通	90	2			○	○					○
○			動物形態学実習	動物の身体の形態と機能を骨格標本や臓器模型などを通じて学ぶ。	2通	60	2	△		○	○					○
○			動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術補助、救急救命などを学ぶ。	2後	90	2	△		○	○					○
○			産業動物	産業動物の歴史や品種、飼養管理方法、および畜産業など社会とのかかわりについて学ぶ。	2通	45	3	○			○					○
○			実験動物	実験動物の歴史や品種、飼育管理方法、動物実験とのかかわりについて学ぶ。	2後	15	1	○			○					○

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物看護総合実習	実際の動物病院などで実習を行うことで、より全的な技術、知識の習得を目指す。	2通	180	6			○	○	△		○	○
合計					45 科目		2280単位時間(102単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
2年以上在学し、総授業時数の3分の2以上の履修を前提に各授業科目の評価を受ける	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	23週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。